



小春橋、今年秋に完成

- ◇ 鴨川免と中川原免を結ぶ町道北松南高前線に、佐々川にか
- ◇ かる小春橋がある。
- ◇ この小春橋は昭和32年に架設された木橋で、老朽化が著し
- ◇ くなったため架替えが行なわれているものです。61年度で
- ◇ 下部工が完成、今年度の秋にはすべて完成する予定です。

魅力あふれる町に向け

新しい息吹いま

(昭和62年度予算編成)



昭和六十二年

予算総額三十九億八千六百万円

○昭和六十二年第一回定例議会が、三月

○九日招集され、十七日までの間、審議

○が行なわれました。

○町長より昭和六十二年の町政の施策

○について、所信と予算の概要を説明さ

○れました。

予算編成の基本方針

投資的事業については、過疎計画計上分、補助事業及び継続事業を中心とし、新規事業については、一部を除き見合わせております。全般には町行政改革大綱の基本方針を考慮し、重点的かつ効率的配分に努めております。

町政推進の七つの柱

- (一) 農業の振興
- (二) 福祉の充実
- (三) 教育文化の向上
- (四) 住民の健康増進

- (五) 社会環境と生活環境の整備
- (六) 道路橋梁、河川の整備
- (七) 中小企業の育成

会計別予算総額		前年度との比較
一般会計	2,441,000千円	7,000千円
特別会計		
国民健康保険	597,450千円	1,450千円
水道事業	164,197千円	△ 61,449千円
診療所事業	151,151千円	45,335千円
老人保険事業	631,844千円	49,817千円
宅地造成事業	386千円	△ 1,185千円
総額	3,986,028千円	40,968千円

歳入・歳出予算

(単位：千円)

歳 入			歳 出		
款	項	金 額	款	項	金 額
1町 税		578,042	1議 会 費		78,299
	1町 民 税	277,764		1議 会 費	78,299
	2固 定 資 産 税	223,089	2総 務 費		347,771
	3軽 自 動 車 税	10,918		1総 務 管 理 費	224,410
	4た ば こ 消 費 税	41,363		2徴 税 費	48,935
	5電 気 税	24,051		3戸 籍 住 民 基 本 台 帳 費	18,913
	6木 材 引 取 税	1		4選 挙 費	15,938
7特 別 土 地 保 有 税	856	5統 計 調 査 費		827	
				6国 土 調 査 費	37,675
2地 方 譲 与 税		47,000		7監 査 委 員 費	1,073
	1自 動 車 重 量 譲 与 税	28,000	3民 生 費		279,806
2地 方 道 路 譲 与 税	19,000	1社 会 福 祉 費		95,275	
		2児 童 福 祉 費		184,526	
3自 動 車 取 得 税 交 付 金		21,000		3災 害 救 助 費	5
	1自 動 車 取 得 税 交 付 金	21,000	4衛 生 費		199,451
4地 方 交 付 税		1,145,000		1保 健 衛 生 費	72,848
	1地 方 交 付 税	1,145,000		2清 掃 費	70,871
5交 通 安 全 対 策 特 別 交 付 金		800		3上 水 道 費	373
	1交 通 安 全 対 策 特 別 交 付 金	800		4診 療 所 費	54,459
6分 担 金 及 び 負 担 金		42,496		5保 健 衛 生 諸 費	900
	1負 担 金	42,496	5労 働 費		93,483
7使 用 料 及 び 手 数 料		48,261		1失 業 対 策 費	25,787
	1使 用 料	43,079		2産 炭 地 域 開 発 就 労 事 業 費	64,434
	2手 数 料	5,182	3労 働 諸 費	3,262	
8国 庫 支 出 金		180,229	6農 林 水 産 業 費		204,225
	1国 庫 負 担 金	65,049		1農 業 費	177,503
	2国 庫 補 助 金	110,002		2林 業 費	26,388
	3委 託 金	5,178	3水 産 業 費	334	
9県 支 出 金		106,850	7商 工 費		6,436
	1県 負 担 金	28,860		1商 工 費	6,436
	2県 補 助 金	64,853	8土 木 費		344,014
3委 託 金	13,137	1土 木 管 理 費		42,624	
10財 産 収 入		22,378		2道 路 橋 梁 費	229,242
	1財 産 運 用 収 入	22,366		3河 川 費	10,702
	2財 産 売 払 収 入	12		4港 湾 費	50
11寄 附 金		1		5都 市 計 画 費	39,596
	1寄 附 金	1	6住 宅 費	21,800	
12繰 入 金		51,861	9消 防 費		97,991
	1基 金 繰 入 金	51,860		1消 防 費	97,991
	2特 別 会 計 繰 入 金	1	10教 育 費		212,819
13繰 越 金		1		1教 育 総 務 費	29,384
	1繰 越 金	1		2小 学 校 費	54,933
14諸 収 入		22,381		3中 学 校 費	40,369
	1延 滞 金 加 算 金 及 び 過 料	200		4幼 稚 園 費	20,242
	2預 金 利 子	7,800		5社 会 教 育 費	57,602
	3貸 付 金 元 利 収 入	500	6保 健 体 育 費	10,289	
	4雑 収 入	8,881		7,000	
5産 炭 地 臨 時 交 付 金	5,000	11災 害 復 旧 費	1農 林 水 産 施 設 災 害 復 旧 費	7,000	
15町 債			174,700		446,009
	1町 債	174,700	12公 債 費	1公 債 費	446,009
		13諸 支 出 金			2
			1普 通 財 産 取 得 費	2	
		14予 備 費		123,694	
			1予 備 費	123,694	
歳 入 合 計		2,441,000	歳 出 合 計		2,441,000

歳入

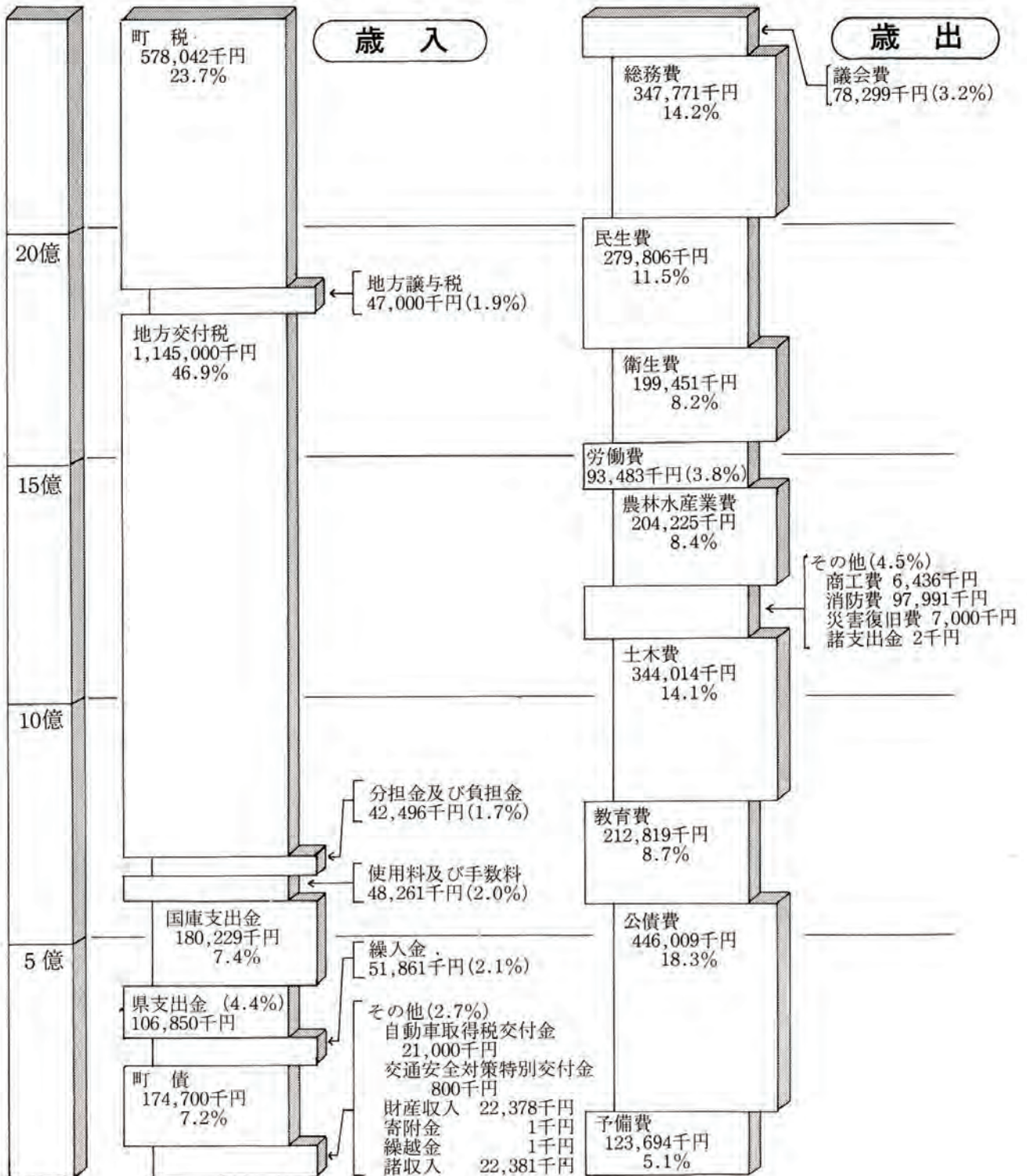
町税では、税制全般の見直しを含めた地方税法の改正が、昭和六十二年年度から実施されるようとしておりますが、本予算案の作成時においては、改正案の内容が具体的には明らかにされておらない状況でありましたので、当初においては現行制度による前年度税収の実績を踏まえ計上しております。

町民税では、法人税を含め四・九パーセントの増収を見込み計上しております。

固定資産税では、土地に対する負担調整分七パーセント、新增改築家屋一五〇戸分を合せ九パーセントの伸びを見込み計上しております。

たばこ消費税については、時限立法による増収分を昭和六十三年三月までの、期限延長を見込み措置しております。

電気税では、電気料金の値下げを反映し二パーセントの減としており、その他については前年度実績をもとに計上しております。



歳出

総務関係

戸籍住民基本台帳費においては、昭和六十二年から除籍簿改正原戸籍簿の再製整備を行なっており、本年は三百一十四千円を計上しております。

国戸調査は十二年目に入りますが、本年羽須和地区の現地調査〇・五一平方キロメートルを予定し、経費三千七百六十七万五千円を計上しております。

住民福祉関係

高令化する現代社会に対応し「福祉の充実」を基調に民生委員等各種団体と連絡を密にし、健康増進及び精神的サービスを含め、地域福祉の向上に努めます。

本年度より老人センターを活用し、在宅の虚弱老人等に対し、通所の方法により各種のサービスを提供する小規模デイサービス事業を実施いた

衛生関係

高令化社会を迎え、住民の健康づくりを目的に成人病予防対策の一環として保健事業の推進に努め、又母子保健事業、一般保健衛生事業推進も昨年引き続きそれぞれ必要な所要額を計上しております。

環境整備については、鋭意努力しているところですが、町内一斉清掃、ゴミの不法投棄防止、佐々川をきれいにする運動等を行い、又環境美化の一環として塵芥ボックス置場の整備等も行い、環境の保全に努めます。

建設関係

社会福祉協議会運営費	5,798千円
福祉医療費扶助費	8,961千円
老人センター運営費	15,115千円
家庭奉仕員委託料	2,000千円
老人クラブ助成	1,440千円
在宅ねたきり老人介護手当	600千円
敬老年金	7,874千円
児童福祉施設費	159,682千円
児童手当費	24,300千円
塵芥処理一部事務組合負担金	43,390千円
診療所事業会計補助金	54,459千円
北松南部清掃一部事務組合負担金	25,348千円

地域住民の要望は、依然として生活道路及び下水排水路、



● 補助事業

並びに河川等の整備を行う必要があり、緊急性の高い箇所です。前年度からの継続地区を重点に施行いたします。将来の重要課題であります。下水道事業についても、その対策を積極的に調査検討いたします。

● 一般土木事業

継続事業として、都市計画運動公園事業、交通安全施設整備事業、小春橋橋梁整備事業を実施します。新規事業として、産炭地域開発就労事業を実施します。



住居等の環境整備を図るため、道路改良舗装、側溝、下水排水路、河川等を単独事業として延九件を実施します。

道路維持費	22,155千円
道路新設改良事業 (木場線道路改良工事他)	124,697千円
下水路整備事業	5,390千円
小春橋橋梁整備事業	62,000千円
交通安全施設整備事業	15,000千円
河川改良事業	9,545千円
運動公園事業	34,000千円
公園管理費	5,354千円
住宅管理費	21,800千円
常備消防費	65,920千円
非常備消防費	20,108千円
消防施設費	11,692千円
災害対策費	271千円

産業振興関係

● 農業委員会

農地法に基づく諸申請に関する審議のため、委員会を毎月開催します。

事業としては、中核的農家の育成確保、農用地の利用集積による経営規模の拡大等を計るための、地域農業自立経営化促進事業と、農用地の流動化及び有効利用を促進するため、農用地高度利用促進事業等を行い、中核的農家の育成に努めます。

● 農業振興について

最近の農業情勢は、農産物等の輸入自由化、更に本年度



一般失業対策費	25,599千円
産炭地域開発就労事業 (大岳線道路改良工事)	64,434千円
農業委員会費	16,811千円
農業振興費	4,084千円
新農業構造改善事業	22,240千円
学童農園施設管理費	27,131千円
畜産総合対策事業	3,740千円
農地費	29,185千円
団体営農道整備事業	20,200千円
林業振興費	2,749千円
商工業振興費	5,138千円
観光費	1,298千円

消防防災関係

このような状況のなかで豊かな村づくりを目指し諸施策を講じます。

常備防災活動については、広域圏事業の中での委託契約に基づいて、佐世保市に対する委託費六千五百九十二万円を計上しております。

また非常備消防では施設整備を年次的に進めており、今年には防火水槽二基一千万円を計上しております。

教育関係

防災については、防災計画により雨季を前にして関係機関と連携を図りながら災害発生時の未然防止に努めます。

学校教育では、昭和六十一年度に完成した、学童農園での勤労体験学習を学校教育の中に計画的、継続的に取り入れることを試みた記念すべき年でありました。

この一年目の成果を踏まえさらに農園施設の充実、運営の改善に努め、住民の方々の理解を深め利用を広めながら、建設の目的に沿った特色ある佐々町教育の樹立に努力いたします。

教育委員会費	1,055千円
事務局費	28,329千円
佐々小学校管理費	21,979千円
口石小学校管理費	24,298千円
佐々中学校管理費	32,470千円
佐々幼稚園管理費	18,328千円
佐々小学校教育振興費	3,957千円
口石小学校教育振興費	4,699千円
佐々中学校教育振興費	7,899千円
佐々幼稚園教育振興費	1,914千円
社会教育関係	23,941千円
少年健全育成事業費	1,915千円
文化財費	426千円
公民館費	17,690千円

ます。

学校施設の整備につきましては、昨年度に国庫補助事業による佐々小学校の図書室、保健室等の整備をおこなって



まいりましたが、本年度は、体育館屋根塗装工事等を重点的に計上いたしております。

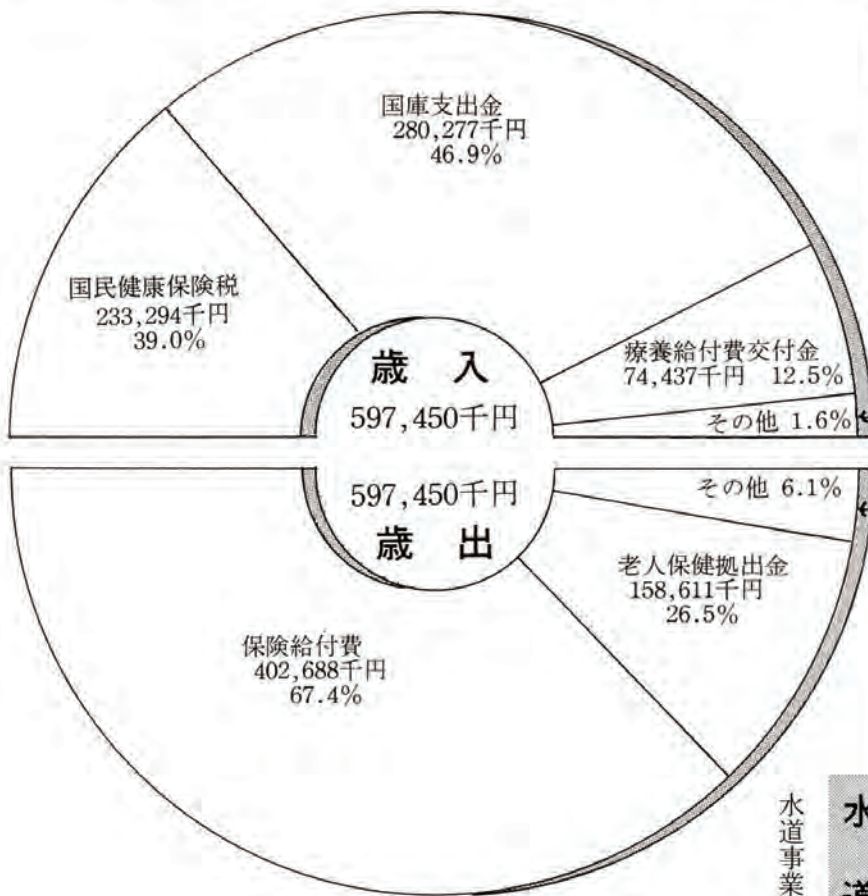


特別会計

国民健康保険事業

国民健康保険税については、前年度調定税額に対して基本的に、二パーセントの伸び

率を見込み本年度最終的には課税所得等の把握確定（六月）課税限度額の改正（三十七万円を三十九万円に改訂予定）等を持って積算せねばなりません。当面二・四パーセント（五百四十三万二千円）を計上いたしました。

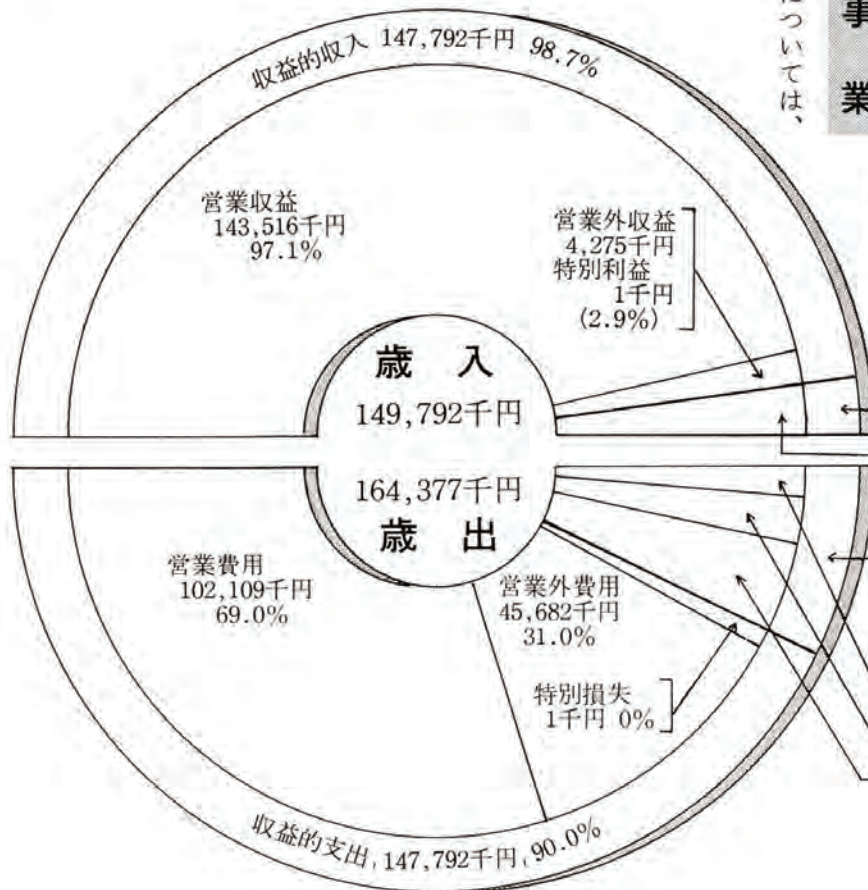


水道事業

水道事業会計については、

使用料及び手数料 151千円
共同事業交付金 2,953千円
財産収入 200千円
繰入金 5,000千円
繰越金 2千円
諸収入 1,136千円

総務費 17,977千円
共同事業拠出金 3,523千円
保健施設費 5,680千円
積立金 200千円
諸支出金 1,191千円
予備費 7,580千円

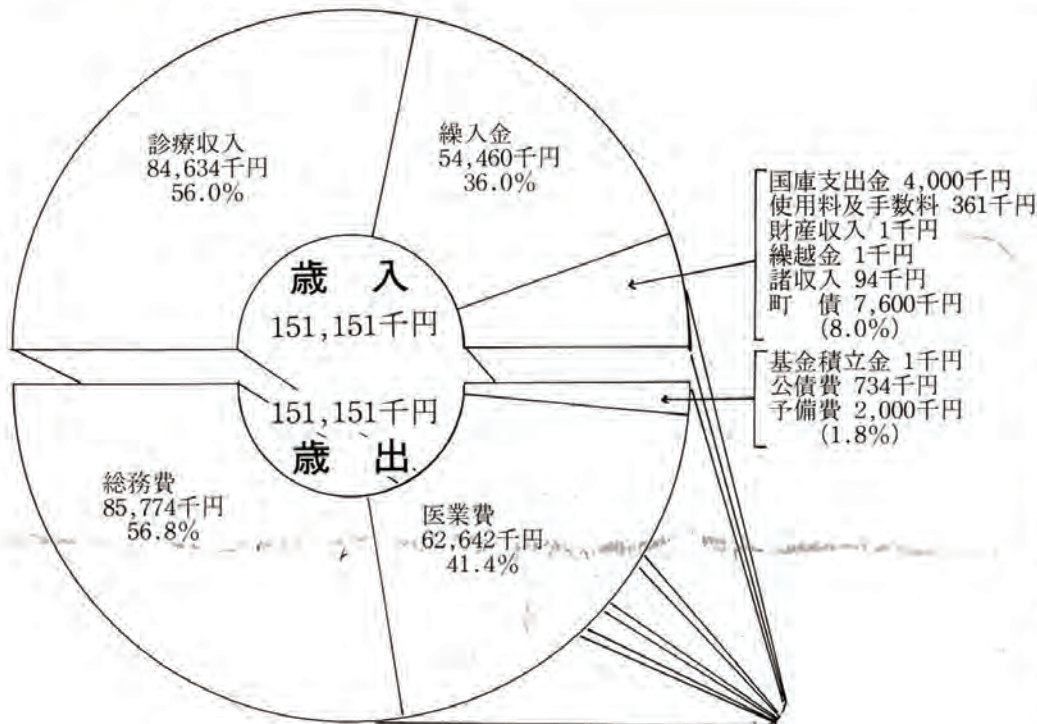


昭和六十・六十一年度の継続事業で施工の木場、牟田原、江里、大茂地区無水源地域簡易水道施設整備事業の完成と、野寄高部地区配水管布設事業の完成により未給水地区としては、角山地区二十五戸、栗林高部地区八戸、大茂黒灰地区二戸、神田の一部で五戸と計約四十戸を残すのみとなりました。

診療所事業会計

診療所特別会計については、昭和六十年四月から新医師を迎え、その経営に当たってまいりました。このことを打開するため、議会とも協議し長崎大学医学

科というところもあり患者数も激減し、経営がさらに悪化してまいりました。



部から新しい医師(所長)を迎え、胃腸外科を新設して、新体制でその経営に努力したいと思えます。

歳入については、医師の交替により、収入は前年度より増加する見込みではありませんが、上半期にはその効果は薄いものと考え、下半期の収入に重点を置き計上しました。

入院を上半期一日二・五人、下半期十人、外来を上半期五十人、下半期七十人を見込み、八千四百六十三万四千円を見込み計上しました。

施設など整備のためレントゲン器具について国庫補助(四百万円)、起債(七百六十万円)を見込みましたが、認可については確定いたしておりません。

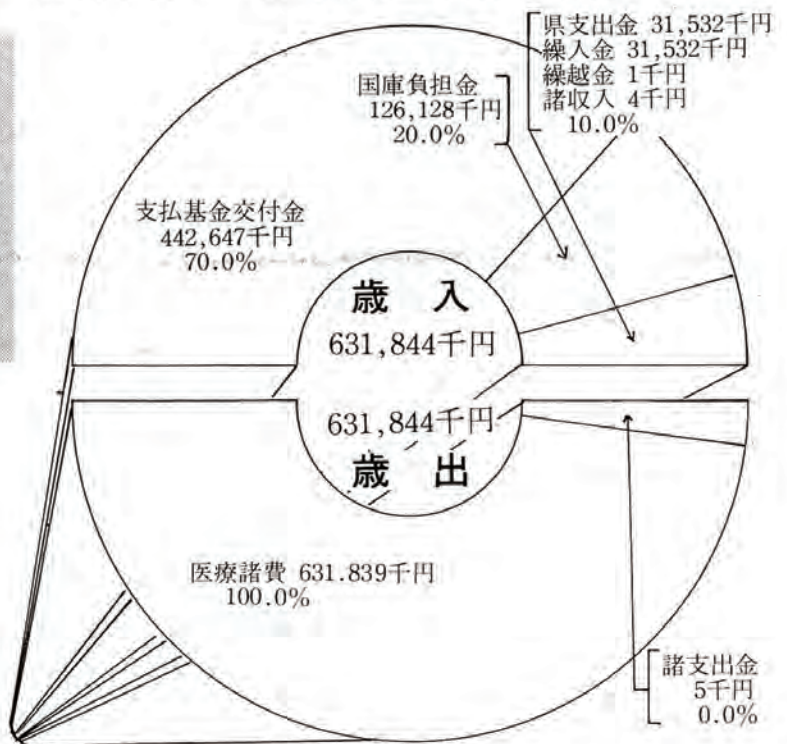
歳出について、一般管理費のうち、おもなものは、手術室、診察室、及びレントゲン室を改造するため工事請負費(一般会計繰入金を充当)を計上しました。

医療費のうち、おもなものは、レントゲン機械、手術台、内視鏡、麻酔器など新医師を迎えるための備品整備を行うため三千八百万円(一般会計繰入金を充当)を計上しました。

老人保健事業

医療費について、本年度老人医療費として前年度実績より医療受給対象者の増加、医療費の自然増を考慮して十パーセントの伸びを予定し計上しました。

支払のための資金として、支払基金交付金七十パーセント、国庫負担金二十パーセント、県費負担金五パーセント、町費負担金五パーセントを計上しました。



宅地造成事業

さざん花団地宅地造成事業の二十一区画未処分地については、今後検討させていただくこととして、当初は保留し、排水処理施設使用料をもってその他諸費用を計上いたしております。